|  |
| --- |
|  |
| 働くということ |
| 人はなぜ働くのでしょうか。改めて「働く」ということについて考えてみましょう。 |

目次

# 「働く」ってどういうこと？

## 目的を持つことの意味

就職活動に向けて周囲が慌ただしくなり始めると、みんなの動きに乗り遅れまいと焦り出す人がいます。まるで「就職しない」という選択肢などないかのように、何の疑問も持たずに準備を始めるのです。しかし、「みんなが就職するから」という理由で就職を目指すのは好ましくありません。たとえば、将来は医者になりたいから医学部へ行く、筋力を鍛えたいからスポーツジムに通うといったように、明確な目的があって初めて具体的な行動が生まれます。そもそも「○○を目指したい」「○○を成し遂げたい」という強い思いがなければ、自ら頭を使ったり、やるべきことを探したりすることもできません。結果として、ただ指示を待つだけの人になってしまいます。どんな目的であれ、明確な目的があれば、その達成に向けて何をすればよいのか、自分に何ができるのかを考え、そして努力することができます。

## 人生を左右する働く目的

働く目的は人によって異なります。もちろん、正解などありません。「経済的に自立するため」「家族の生活を支えるため」と答える人もいるでしょう。これも立派な目的のひとつであり、多くの人が「生きていくため」に働いているのも事実です。しかし、給料という対価さえあれば、どんなに辛い仕事や困難な問題にも立ち向かえるかといえば、そうではありません。最終的には「生きていくため」であったとしても、同じ時間を仕事に費やすのであれば、そこに新しい目的を見出し、より多くのやりがいや喜びを味わえる方がよいでしょう。

また、社会に必要とされているという実感は、人を成長させる原動力にもなります。働く目的を考えることは、仕事を通じて何を得たいか、何を成し遂げたいかを考えることであり、ひいては人生をどう生きるかを考えることでもあるのです。

## 働き方のいろいろ

一口に「働く」といっても、働く目的はもちろん、働き方もさまざまです。働き方を考えることもまた、人生をどう生きるかを考えることにつながります。自分のライフスタイルや人生設計に応じた適切な働き方を選ぶためにも、どんな働き方があるのかを理解しておくことが大切です｡

現在の日本では働き方が多様化していますが、その雇用形態は「正規雇用」と「非正規雇用」の2つに分類されます。

| 分類 | 雇用形態 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 正規雇用 | 正社員 | 企業から直接雇用され、雇用期限のない従業員。福利厚生があるのがメリット。かつては正社員と言えばフルタイム勤務であったが、最近では短時間正社員制度を導入する企業もある。 |
| 非正規雇用 | 派遣社員 | 人材派遣会社と雇用契約を結んでいる従業員。派遣先の企業にて指示された業務を行う。一般的にボーナスや退職金は出ない。得意分野で能力を発揮できる反面、派遣先のニーズに左右されるため、雇用は安定しない。人材派遣会社によって、福利厚生の充実度に違いがある。 |
| 契約社員 | 企業から直接雇用されるが、3か月単位や半年単位など、雇用期限付きの契約を結ぶ従業員。一般的にボーナスや退職金は出ない。福利厚生制度が適用される場合と、されない場合がある。 |
| パート・アルバイト | 臨時で雇用される従業員。一般的に正社員よりも労働時間が短く、賃金が安い。福利厚生制度は適用されない場合が多い。 |

（出典）総務省「労働力調査（基本集計）平成26年10月分」

# 就職活動って何だろう？

## 就職活動は自分と向き合うチャンス

「就職活動」とは、文字どおり就職するために行う一連の活動のことです。そもそも就職を希望する人と、企業側のニーズが合致しなければ、雇用契約は成り立ちません。どんなに真剣に「この会社で働きたい！」という思いを伝えても、採用する企業が興味を示さなければそれまでです。企業は、自社の将来を担う戦力を必要としているのであり、働く意欲さえあれば誰でもよいわけではありません。ビジネスの観点から一人一人の可能性を見極めようとします。

したがって、就職活動においては、世の中にごまんとある会社の中から「ここで働きたい！」と思える会社を見つけると同時に、その会社のために自分に何ができるのか、その会社で何をしたいのかを明確にする必要があります。これは、思い付きでできるほど簡単なことではありません。「自分はなぜ社会に出て働きたいのか」「自分はどんな人間なのか」を自問自答することから始めなければなりません。つまり、「自分を知る」ということです。そして、自分なりに導き出した答えにもとづいて、自分の働く目的を達成するためにはどのような仕事に就くべきか、どのような企業が自分のような人材を必要としているのかを見極めていくことになります。

このように就職活動は、等身大の自分と向き合うチャンスであるとともに、これまで積み重ねてきた知識や技術、経験をベースに、自分に最もふさわしい活躍の場を見つける大切なプロセスといえます。時間と労力をかけてじっくり検討することが大切です。

## 就職活動を進める上で必要な取り組み

就職活動を始めるにあたっては、いったい何をすればよいのか、何から手を付ければよいのかわからず、誰でも不安になるものです。確かに、やるべきことはたくさんあります。本来の目的を見失うことなく、最後まで余裕を持って就職活動を進めるためには、どんな取り組みが必要なのかを知っておきましょう。

| 取り組み | 説明 |
| --- | --- |
| 自己分析 | 自分を知る重要なプロセスです。自分の強みや自分にできることを整理し、働く目的を考えます。 |
| 情報収集 | 世の中にあるさまざまな仕事を理解し、さらに気になる業種や職種、企業について研究します。OB・OG訪問なども情報収集に役立ちます。 |
| スキルアップ | 就職後に必要とされる能力を磨くために、知識の習得、資格の取得などに取り組みます。 |
| 応募書類の作成 | 履歴書やエントリーシートなど、企業にアプローチするための各種応募書類を作成します。 |
| 面接・筆記試験の準備 | 効果的な自己PRの方法を考えます。面接以外に筆記試験が予定されている場合には、その対策も行います。 |

# 就職活動の流れを理解しよう

就職活動は、適切な時期に、適切な方法で進めていく必要があります。

内定までの全体スケジュールを把握しましょう。

## 就職活動の流れ（新卒編）

就職活動の大まかな流れを確認しましょう。会社説明会は卒業の1年前、3年生の春休みに始まります。

従来よりも開始時期が遅くなったため、短期決戦の色合いが濃くなっています。

そのため、会社説明会が始まる前に、自己分析や情報収集などの準備が必要です。

図 1新卒採用に向けた就職活動の一般的なスケジュール

## 就職活動の流れ（転職編）

転職者を対象とした中途採用の場合、一般的に不定期で採用活動が行われるため、自分の都合や希望だけで動けない難しさがあります。また、即戦力を求めている企業に対し、自分の価値をアピールするためには、そもそもなぜ転職したいのか、これまで何をしてきたのか、転職して何がしたいのかを、改めて整理しておくことが大切です。

図 2中途採用に向けた就職活動の一般的なスケジュール

# 参考資料

図表目次

引用文献

索引